

令和2年度

教育に関する事務の点検及び評価  
報告書

令和3年9月

西脇市教育委員会

《参考》

**○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）**

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 1 教育委員会の点検・評価

## (1) はじめに

西脇市教育委員会では、西脇市教育振興基本計画「教育創造にしわきプラン」に掲げる「心紡いで彩り豊かな人財の育成～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる共生社会の実現に向けて～」を基本理念とし、5つの重点目標を設定しています。

当該基本計画に基づき、学校教育・社会教育のそれぞれの分野において、家庭・学校・地域との連携を図りながら様々な教育活動を展開しています。これらの活動については、広報紙やホームページなど様々な機会を通じて情報を発信しているところです。

また、毎年度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、本報告書を作成し、議会へ提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政の推進に努めています。

## (2) 点検・評価の実施方法について

### ア 点検・評価の対象事業について

令和2年度の主要課題についてPDCAサイクルで精査し、その主要事業を選定しました。

### イ 点検・評価の対象期間について

毎年4月から翌年3月まで1年間の点検・評価を実施することにより、次年度以降の教育行政の充実・拡充に生かします。

### ウ 評価方法について

自己評価は、5段階とし、①妥当性（目的達成のための最適の取組であるか、市が実施する必要性があるか）、②有効性（当初の目的が達成されたか）、③効率性（最小の資源で最大の成果を上げる工夫をしているか）の3点を柱とし、事業達成度から得た次の5段階評価としました。

1	目標の達成が不十分
2	目標の達成がやや不十分
3	相当程度は目標を達成
4	目標以上に達成
5	目標を大きく上回り達成

### エ 学識経験者の活用について

点検・評価の客観性を確保するため、教育委員会が行った点検・評価について、2人の外部評価委員からその意見を聴取しました。

浅野 良一 氏	兵庫教育大学大学院学校教育研究科特任教授
岸本 信子 氏	元西脇市立小学校長

## 2 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員名簿（令和2年度在籍）

職名	氏名	備考
教育長	笹倉 邦好	
教育長職務代理者	藤原 久和	
委員	内橋 和彦	
	柴垣 美紀	
	岸本 みのり	令和2年12月23日就任

### (2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会定例会は、毎月1回開催し、令和2年度は合計12回開催しました。

### (3) 教育委員会会議での審議事項

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条及び西脇市教育長に対する事務委任規則第2条の規定に基づき、令和2年度は39件審議しました。

	審議項目	件数
ア	学校教育及び社会教育に関する一般方針を決定すること	11
イ	教科用図書及びその取扱いの一般方針を定めること	1
ウ	県教育委員会の人事一般方針に基づき内申を行うこと	2
エ	教育委員会その他教育機関の職員の任免その他人事に関すること	2
オ	教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定改廃に関すること	7
カ	議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	3
キ	教育予算の見積りを決定すること	10
ク	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること	1
ケ	表彰に関すること	1
コ	社会教育委員及び文化財保護審議会委員を委嘱すること	1

（審議案件以外に、報告事項等23件を取り扱いました。）

### (4) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会会議への出席以外に、学校訪問、各種行事等に参加しました。その概要は、次のとおりです。

ア 市議会定例会・臨時会への出席（教育長）

イ 教育委員研修会等（委員）

市町村教育委員会連合会新任教育委員研修会（11月）

ウ 学校行事（各委員）

（ア） 学校園指導訪問（6月・7月、10月・11月）

- (イ) 入学（園）式・卒業（園）式（４月・３月）
  - (ウ) オープンスクール（年間）
  - (エ) 運動会・体育大会・文化祭等（９月～１１月）
  - エ その他行事（各委員）
    - (ア) 青少年問題協議会（７月・１１月・２月）
    - (イ) 市民体育大会、成人式等（１０月・１月）
    - (ウ) 西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議（７月・８月・１１月・３月）
    - (エ) その他教育委員会等関係行事（各月）
- (5) 成果と課題

本市では、平成31年３月に第３期西脇市教育振興基本計画「教育創造にしわきプラン」を策定しました。当該基本計画は、激動の時代を豊かに生き、未来を開拓する多様な人材を育成するとともに、生涯活躍社会・共生社会を実現するため「西脇市総合計画」の教育に関する内容や教育関係諸計画等を踏まえて策定したものです。令和元年度から令和５年度までの５年間を対象期間とし、「心紡いで彩り豊かな人財の育成」を基本理念と定め、教育施策を推進しています。

学校園教育では、「生きる力の育成」を目標に、「知」「徳」「体」の調和のとれた発達を目指し、教職員の資質・指導力の向上に努めました。

小・中学校の学習指導では、基礎・基本の定着、言語活動の活性化に力点を置き、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりに取り組みました。全ての児童生徒の学力状況を把握し、指導方法の工夫・改善に努めるとともに、学力低位層児童生徒への支援に力点を置き、家庭学習の習慣化や学び合い、認め合う学級づくりへの取組を進めました。

また、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫・改善を目指し、小・中学校に学校教育活動支援員を配置するとともに、学習教材の工夫・改善を図りました。

さらに、「学力向上スーパーティーチャー」を派遣し、若手教員の授業力向上に努めるとともに、「がんばる先生応援事業」の実施により教職員の自主研究を支援するなど、教職員の研修意欲の高揚と指導力の向上を図りました。

英語教育の推進では、「読む」「書く」「話す」「聞く」の４領域全ての向上を目指し、小学校における英語教育の指導方法と小・中学校のカリキュラムの接続についての研究を進めました。ALTの配置、英語コミュニケーション能力調査の実施、英語検定受験料の助成等により、児童生徒の英語力の向上を図りました。

ICTを活用した教育環境整備につきましては、GIGAスクール構想を推進するため、児童生徒及び授業を担当する教員に1人1台タブレット型コンピュータを導入し、デジタル教科書及び協働学習支援ソフトを活用したわかりやすい授業ができる環境を整えました。

今後も、学力向上に係る各施策・事業が計画的・系統的なものとなるよう、検証、工夫・改善を図ります。

また、「いきいき体力づくり推進事業」「市長ふるさとを語る事業」等の実施により、体力向上やふるさとを愛する心の醸成・キャリア教育の推進も図りました。

生徒指導課題対応では、いじめ・不登校対策を喫緊の課題として捉え、早期発見・早期対応のための連絡体制の構築を推進しました。福祉部局や警察等の関係機関との連携を柱に、学校内での組織的な対応を図ることができるよう役割を明確化し、具体的な指導を行えるよう推進しています。

青少年健全育成活動では、4中学校区ごとでの地域の実情に応じた課題解決を図るため青少年健全育成会議を開催し、青少年のゲーム依存等の新たな教育課題について協議しました。

このことにより、具体的、直接的に改善が図られるよう、動画配信による理解・啓発活動を進めました。

就学前教育の推進では、大学教授等の学識経験者を含む西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会を設置して2年目となり、各園では助言を受けて学び気付いたことを取り入れ、次へ生かすPDCAサイクルにより、事業の取組が浸透してきました。

今後も、市内の認定こども園及びしばざくら幼稚園の教職員の資質向上を図るため、保育士等キャリアアップ研修を兼ねたより専門性の高い幼保交流研修や幼児教育センター職員が園を訪問する現場交流事業を実施するとともに、幼児期の教育と小学校教育との連携を強化していきます。

学校園の施設整備では、西脇小学校の鉄筋コンクリート校舎改修工事や西脇中学校の校舎外壁補修工事を行うなど、安全・安心な教育環境を確保するため、計画的に各学校施設の営繕を行いました。

学校学習環境規模適正化では、教育を取り巻く環境が大きく変化し、児童生徒数が減少する中、持続可能な教育環境を構築するため、西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議を設置し、学習環境の適正規模・適正配置に係る協議を開始しました。また、4中学校区ごとに地域会議を設置し、幅広く地域の声を聴取するなど課題整理に努めました。

学校給食では、衛生管理及び食品の安全管理に留意し、食中毒事故を起こさずに学校給食を提供することができました。食育の推進では、食育だよりの発行と栄養教諭が学校に出向き、食育の推進に努めました。

また、令和3年4月からの学校給食センター調理業務委託への円滑な移行に向けて、市調理員の処遇や事業者選定条件の構築など準備を進めてきました。

今後も、年間を通じて安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供と地場産野菜の使用率向上に努め、より良い学校給食を提供していきます。

人権教育では、人権が尊重される社会の実現に向け、西脇市人権教育協議会と連携を図りながら、地域・学校園・職場において人権教育・啓発を推進しました。「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間（8月）事業では、市内8地区で例年実施している講演会を、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しましたが、啓発のための代替活動として、人権啓発作品の募集及び作品展を開催しました。また、子ども多文化共生サポーターの派遣、にしわきジュニアじんけん教室の開催、人権啓発資料の作成等にも取り組みました。

今後も、多くの市民の参画による人権教育・啓発を進める取組が必要と考えています。

生涯学習では、市民が気軽に取り組める学習機会の創出に取り組みました。新型コロナウイルス感染症の影響により、事業縮小や中止せざるを得ない講座・教室もありましたが、子どもから高齢者までそれぞれの年代に応じた各種講座や教室等を継続実施するとともに、市民主体の自主運営講座の運営支援を行うなど、豊かな人間性を育む生涯学習の推進を図りました。

また、芸術文化事業では、美術展覧会、文芸まつりなどを実施しました。

さらに、放課後児童対策事業の放課後子ども教室や高齢者大学における各講座についても新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、児童の居場所づくり、高齢者の生きがいづくりを行うとともに高齢者による地域ボランティア活動の活性化を図りました。

今後は、各世代及び各団体の学習、活動ニーズに応じた魅力ある事業を行うためにも、しっかりとした新型コロナウイルス感染症対策を講じ、豊かな人間性を育む生涯学習の推進を図る必要があります。

また、市民交流施設を拠点とした文化芸術活動を推進するためにも、人材育成の支援やリーダーの養成に努めていく必要があります。

生涯スポーツでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの大会やイベントが中止となる中、西脇市体育協会ほか関係諸団体と連携を図りながら、今後のスポーツ活動における組織の在り方について研究を行いました。

また、（公財）西脇市文化・スポーツ振興財団等と連携した各種スポーツ教室の開催や市内9コース・総延長100kmのウォーキングコースの活用、地域スポーツの普及などに取り組むとともに、生涯スポーツの機会の創出及び充実について検討しました。

東京2020オリンピック・パラリンピックホストタウン事業では、新型コロナウイルス感染症の影響により、本大会が延期されたことから、市民の気運醸成に再度取り組みました。

今後は、安全で安心できるスポーツ活動の環境整備や卓球を中心とした生涯スポーツの気運の醸成を図っていく必要があります。

生活文化総合センターは、新型コロナウイルス感染症の影響により入館者数が減少しましたが、市民ギャラリーは作品展示に、研修室等は各種講座や会議及び学習ルームとして多くの方に利用いただきました。郷土資料館も新型コロナウイルス感染症の影響により、特別展などの入館者が大幅に減少しました。今後とも、体験教室などのイベントの実施や学校園との連携を図るなどしてPR活動に努めます。

図書館では、資料の充実を目指す中で、令和2年度末には蔵書数が218,805冊となりました。利用については、新型コロナウイルス感染症の影響により、貸出冊数は352,901冊と前年度に比べて約7.3パーセントの減となりましたが、学校園等への図書団体貸出は、家読等の推進の影響で大幅に増加しました。また、おはなし会や学校園への出張おはなし会等の各種行事についても、コロナ禍において多くが中止となりました。

今後はさらに資料の充実を図り、令和6年度末には蔵書数25万冊を目指します。また、減少した貸出冊数を回復させ、全国トップレベルの図書館のあかしとされる貸出密度10冊以上を目指すとともに、子どもの読書活動の推進に一層取り組んでまいります。

以上のような成果及び課題を踏まえ、今後とも、PDCAサイクルを活用した事業展開と、その見直し改善を図るとともに、教育委員会として、その資質を高め、関係諸団体への指導・助言・活動支援、各種事業等の奨励等を通じ、市民から信頼が得られ、円滑で成熟した教育行政の推進に努めてまいります。

第3期西脇市教育振興基本計画「教育創造にしわきプラン」体系

重点目標	施策の柱	施策の基本方針項目(市施策)	
1 社会の変化を前向きに受け止め、夢と志を持って可能性に挑戦する力を育成します。	1 確かな学力の育成	1 乳幼児期における教育・保育の質の向上 2 新学習指導要領の着実な実施等 3 全国学力・学習状況調査の実施・分析・活用 4 就学前から中等教育までの各段階の連携の推進	
	2 豊かな心の育成	1 子どもたちの自己肯定感・自己有用感の育成 2 道徳教育の推進 3 いじめ等への対応の徹底、人権教育の推進 4 体験活動や読書活動の充実 5 伝統や文化等に関する教育の推進 6 文化財の保存・活用の推進 7 青少年の健全育成 8 男女共同参画の推進 9 主権者教育・租税教育等の推進 10 環境教育の推進 11 多文化共生教育の推進 12 オリンピック・パラリンピック教育の推進 13 災害からの復興等持続可能な地域づくりのための教育の推進	
	3 健やかな体の育成	1 子どもの健康の保持増進をはじめとする食育の充実 2 子どもの基本的な生活習慣の確立に向けた支援 3 学校や地域における子どものスポーツの機会の充実	
	4 社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成	1 各学校段階における産業界とも連携したキャリア教育・職業教育の推進 2 ふるさと意識を育む教育の推進	
	5 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進	1 家庭の教育力の向上 2 地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進	
	2 未来を見据え、地域社会の持続的な発展を実現するための多様な人材を育成します。	1 グローバルに活躍する人材の育成	1 英語をはじめとした外国語教育の強化
		2 生きる土台となる芸術・文化・スポーツの推進	1 文化・芸術活動の充実・支援 2 文化施設の充実・整備 3 個々のスタイルに応じた生涯スポーツの推進 4 スポーツを支える環境の整備
		3 スポーツ・文化等多様な分野の人材の育成	1 継続的な生涯スポーツの推進や支える人材の育成 2 芸術家等の養成、文化芸術振興策の推進
	3 生涯学び、人生を豊かに生きられる環境を整えます。	1 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	1 現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進 2 女性活躍推進のためのリカレント教育の強化 3 高齢者等の生涯学習の推進 4 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 5 生涯を通じた文化芸術活動の推進 6 西脇市図書館における生涯を通じた自主学習の支援と読書活動の推進
		2 人権意識の高揚を図る人権教育の推進	1 人権に関する学習機会の充実 2 人権教育・啓発のための情報の提供
		3 人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進	1 新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策の検討 2 施設の複合化や多様な資金調達等も活用した持続可能な社会教育施設の運営
		4 障害者の生涯学習の推進	1 学校卒業後における障害者の学びの支援 2 地域における支援機関との連携 3 切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実 4 障害者スポーツ、障害者の文化芸術活動の振興等
	4 自己の可能性の追求が、誰にも保障される学びのセーフティネットを構築します。	1 家庭の経済状況や地理的条件への対応	1 教育へのアクセスの向上、教育費負担の軽減に向けた経済的支援 2 学校教育における学力保障・進路支援、福祉関係機関等との連携強化 3 地域の教育資源の活用 4 地域の特色を生かし、学校・家庭・地域が連携した食育の推進 5 児童生徒数が継続的に減少する地域における教育環境整備 6 大規模災害等への対応
2 多様なニーズに対応した教育機会の提供		1 特別支援教育の推進 2 不登校児童生徒の教育機会の確保 3 高等学校中途退学者等に対する支援	
5 教育施策推進のための基盤を整備し、教育成果を共有します。	1 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制の整備等	1 教員指導体制の整備 2 教員の指導環境の充実 3 これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上	
	2 ICT利活用のための基盤の整備	1 情報活用能力の育成 2 各教科等の指導におけるICT活用の推進 3 校務のICT化による教員の業務負担軽減及び教育の質の向上 4 学校のICT環境整備の促進	
	3 安全・安心で質の高い教育環境の整備	1 安全・安心で質の高い学校施設等の整備の促進 2 将来的に持続可能な適正学習環境規模の構築 3 学校における教材等の教育環境の充実	
	4 児童生徒等の安全の確保	1 学校安全の推進	

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	教育総務課
-----	-------

(A) 重点課題

○安全・安心で質の高い教育環境の整備  
 学校学習環境規模の適正化の推進

(B) 現状及び展開方針

- 教育を取り巻く環境が大きく変化し、児童生徒数が減少する中、持続可能な教育環境を構築するため学習環境の適正規模・適正配置について課題等を整理し、今後の推進方針を策定する。
- 西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議や4中学校区ごとに設置する学校学習環境規模適正化地域会議において、児童生徒の保護者、地域住民、学校関係者の意見を聴くとともに、理解を得ながら学校学習環境規模適正化の検討を進める。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 学校学習環境規模適正化検討会議	5-3-2	開催回数	—	設立準備	4回	4回	3
(2) 学校学習環境規模適正化地域会議 (4中学校区で開催)	5-3-2	開催回数	—	設立準備	延べ 12回	延べ 5回	3
(3) 先進地視察	5-3-2	実施回数	—	2回	2回	2回	3

(D) 主な取組の成果

- 西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議及び地域会議を立ち上げ、学校学習環境規模適正化の検討を開始した。
- 検討会議等では、委員間で学習環境を取り巻く現状の共通認識を図るとともに、学校学習環境規模適正化を図るため、課題等を整理し、推進方針の検討を行った。
- 新たな学校運営を研究するため、神戸市と姫路市の小中一貫校（義務教育学校）を視察した。

(E) 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、予定どおり会議を開催できない状況であるが、今後、検討会議、市民フォーラム及び出前講座を開催することにより、教育を取り巻く現状や会議での検討内容を周知するとともに、市内8地区において地域説明会を開催し、より多くの市民意見から聴取を行い、令和3年度の答申に反映させるよう努める。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	教育総務課
-----	-------

(A) 重点課題

○安全・安心で質の高い教育環境の整備  
 (1) 学校教育施設の計画的、効率的な整備の推進  
 (2) 学校教育施設の施設整備（耐震化の促進）・西脇小学校等施設整備事業

(B) 現状及び展開方針

(1) 平成29年度から西脇小学校保存改修工事を実施しており、本年度、鉄筋コンクリート校舎と木造北棟校舎との渡り廊下の設置工事を行い、西脇小学校に係る一連の工事の完了を目指す。  
 (2) 新型コロナウイルス感染症及び熱中症対策として、学校教育施設備品の整備を推進する。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 西脇小学校校舎保存改修工事	5-3-1	基本計画基本設計～工事実施	木造中棟校舎保存改修工事の完了	木造北棟校舎保存改修工事の完了	鉄筋コンクリート棟校舎改修工事等の完了	鉄筋コンクリート棟校舎改修工事等の完了	3
(2) 学校施設耐震化率	5-3-1	耐震化率	98.1%	100.0%	100.0%	100.0%	3
(3) 西脇市立小中学校教育施設長寿命化計画	5-3-1	方針決定	—	計画策定完了	方針検討	方針検討	3

(D) 主な取組の成果

(1) 西脇小学校鉄筋コンクリート校舎の改修工事では、玄関のバリアフリー化と木造北棟校舎との渡り廊下の設置等を行い、西脇小学校に係る一連の工事は完了し、学校機能の向上、教育環境の充実を図ることができた。  
 (2) 新型コロナウイルス感染症の影響により夏季期間に登校する児童生徒に対し、小・中学校にサーキュレーター、ミストファン、ウォータークーラー等を設置することにより、新型コロナウイルス感染症及び熱中症対策を行った。

(E) 今後の課題

(1) 新型コロナウイルス感染症対策として、令和3年度は小・中学校に加湿機能付き空気清浄機等を設置する予定である。国の補助制度を活用しながら学校機能の向上、教育環境の充実に努める。  
 (2) 施設整備計画について、西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議での答申に基づき本市の方針を示した後、具体的な整備スケジュールや事業費等を見直す。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 教育総務課学校給食センター

(A) 重点課題

○健やかな体の育成  
学級担任や教科担当と栄養教諭との連携及び効果的な食に関する指導の充実

(B) 現状及び展開方針

- (1) 各学校園からの派遣依頼を受け連携しながら食育授業を実施している。給食センター内でも施設見学を受け入れ、食育指導を実施している。
- (2) 毎月開催の給食連絡会で各学校園の担当教諭の意見も聴きながら、国の学校給食摂取基準に配慮した献立作成に努めている。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 栄養教諭による食育指導	1-3-1	実施回数	90回	96回	90回	56回	3
(2) 学校給食残菜率	1-3-1	残菜率	5.5%	5.8%	6.0%	4.3%	3
(3) 食中毒事故件数	1-3-1	件数	0件	0件	0件	0件	3

(D) 主な取組の成果

4月・5月の新型コロナウイルス感染症対策による学校園の臨時休業などにより、1学期は学校園からの派遣依頼がほとんどなかったため、目標値には至っていないが、2学期以降、各学校園からの派遣依頼が重なり、3人の栄養教諭が給食管理部門の役割を協力し合い、食育指導の時間確保に努めた結果、希望学校園からの派遣依頼や担当教諭との事前調整も含め全て対応することができた。それ以外では、しばざくら幼稚園5歳児の施設見学を受け入れ、食育指導を行った。いずれの場合も、栄養教諭の食育指導後には子ども達の意識が変わり、しっかり食えることができていると学校園からの報告があった。

(E) 今後の課題

小・中学校とも大規模校の残菜量が多い現状がある。栄養教諭が核となり学校と連携しながら、食育指導を行っているが、全ての学校に毎日行くことはできないため、日々関わる教職員の役割は大変重要である。毎月開催の給食連絡会で学校園別の残菜状況を公表し、意識付けを図るとともに、残菜量の多い学校については栄養教諭が積極的に食育指導に関われる体制を構築していく。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 教育総務課学校給食センター

(A) 重点課題

- 家庭の経済状況や地理的条件への対応  
 (1) 学校給食の安定的に継続した提供の推進  
 (2) 学校給食における地産地消の推進

(B) 現状及び展開方針

- (1) 調理業務の民間委託に向けて、選定条件の構築が最も重要となることから、要求水準書内容を検討する上で、保護者を委員に含む選定委員会を開催し意見聴取する。事業者選定方法としては、プロポーザル方式を採用し、価格だけでなく提案内容も含めた質の高い事業者を選定する。  
 (2) 野菜生産者グループ例会を毎月開催し、給食食材（野菜）の地元産を優先している。農林振興課や旬菜館と学期ごとに三者会議を開催し、地場産食材についての情報交換を行っている。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 調理業務委託事業	4-1-4	進捗状況	2/14教育長に答申書提出	8/3・10 保護者説明会開催	令和3年4月移行に向けた調理業務委託準備	11/16選定業者と契約し移行準備完了	3
(2) 地産地消率	4-1-4	地産地消率	22.1%	18.8%	20.0%	24.5%	3
(3) エネルギー充足率	4-1-4	充足率	100%	100%	100%	100%	3

(D) 主な取組の成果

- (1) 調理業務委託の選定条件を示す要求水準書作成。プロポーザル方式採用のため保護者を委員に含む選定委員会を設置し3回開催。10月21日プロポーザル参加事業者4社の中から1社を選定し、11月16日契約。令和3年4月からの円滑な移行に向けて調整と準備を行った。  
 (2) 既存調理員の処遇について個別面談で意見聴取し調整を行った。  
 (3) 地産地消の取組として、農林振興課、旬菜館との三者会議を学期ごとに開催。現在、給食で使用するために加工品（いちご、さといも）について、農林振興課を軸として生産農家と調整を行った。

(E) 今後の課題

- (1) 調理業務委託事業者のノウハウを活用した食育活動の実践  
 (2) 調理業務委託後の給食についてのアンケート実施  
 (3) 調理業務委託後の検証を行い、契約期間満了後の次回契約内容の参考とする。  
 (4) 野菜生産者グループの質の向上と供給体制の確立

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	学校教育課
-----	-------

(A) 重点課題

○確かな学力の育成  
 (1) 学校における授業改善の推進  
 (2) 「にしわき学力向上事業」における各事業内容の見直しと改善

(B) 現状及び展開方針

(1) 学力向上推進体制について、連携強化を進めるとともに、組織的・計画的に学力向上の取組の充実を図っていく。学力向上推進会議では、就学前、高等学校も含めた校種間、家庭との連携を重視し、推進会議での方針が推進委員会を通じて各学校の研究につながる体制を工夫する。  
 (2) 学力調査結果向上に向け、全ての学習の基盤となる「読解力」を高める取組を市内共通テーマとして設定し、日々の授業改善や評価方法の見直しを図る。  
 (3) 英語教育の推進に引き続き重点を置き、英語検定受験料補助や民間英語試験、小学校における指導方法の研究を進める。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 授業改善の推進	1-1-2	研究授業実施回数	33回	52回	60回	64回	3
(2) 全国学力・学習状況調査／市内統一調査	1-1-3	小6	99/100	103/100	105/100	107/100	3
国語の授業の内容はよくわかりますか。 (当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答)		中3	107/100	111/100	111/100	100/100	
(市値／全国値(H31)=100)							
(3) 民間英語試験(小6)	2-1-1	トータル	310.6	323.8/304.8	329.0	343.2/339.9	3
(市平均点/全国参考値)		聞く力	83.3	88.3/83.1	90.0	93.4/94.7	
平成30年度は、全国参考値の公表は無し		読む力	72.4	75.6/70.3	77.0	80.6/78.3	
		話す力	79.3	79.9/75.4	81.0	78.6/83.0	
		書く力	75.6	80.0/76.0	81.0	90.6/83.9	

(D) 主な取組の成果

(1) 学力向上推進会議や推進委員会での協議決定事項を、学校教育課だより等で保護者や教職員に周知し、学校・家庭と連携した取組を図った。全国学力・学習状況調査の調査問題を活用した解説動画を制作し、児童生徒が視聴できるようにした。  
 (2) 共通研究テーマ「読解力の向上」について、読解力の系統表を作成し、各学校に周知し、日々の授業改善や評価方法の見直しの資料として活用した。  
 (3) 市平均点が全国参考値を上回り、年々向上している。小学校における外国語科カリキュラムの作成と指導方法の研究により、児童の英語力の向上を図った。

(E) 今後の課題

(1) 日々の授業改善を最優先課題とし、中学校教科担当者の活性化や小学校担任等連絡会の開催等により、授業における情報や手法の共有を図り、教職員の指導力の向上を図る。  
 (2) 「読解力の向上」の取組を各校の年間の研究計画に位置付け、「にしわきパワーアップシート」の有効活用や解説動画の活用等、具体的な取組を引き続き研究するとともに、保護者にもその理解を求める。  
 (3) 小・中学校における英語教育の指導方法と小・中学校のカリキュラムの接続についての研究を進めるとともに、小中9年間で求められる学びの系統性・連続性を踏まえた学習指導に係る研究を推進する。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	学校教育課
-----	-------

(A) 重点課題

○豊かな心の育成  
いじめの早期発見と早期対応

(B) 現状及び展開方針

(1) いじめ認知への組織的な連絡体制を構築したが、大幅な認知件数の増加には至っていない。認知意識をさらに高め、初期対応を行うとともにより良い人間関係づくりを目指した学級づくりを行う。  
(2) いじめの未然防止への取組を学校教育活動のあらゆる場面において展開し、児童会・生徒会等の特別活動を充実させることにより、児童生徒自身が日頃からより良い人間関係づくりへの意識をさらに持つことができるよう取り組む。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) いじめ早期発見、早期対応	1-2-3						
いじめの認知件数		小学校	16件	38件	40件	29件	2
		中学校	17件	19件	20件	14件	
(2) いじめ根絶への意識高揚	1-2-3						
「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と考える児童生徒の割合		小学校	94%	96%	99%	96%	3
		中学校	93%	96%	98%	95%	

(D) 主な取組の成果

いじめの認知件数は増加していないが、いじめ事案が減少していることに関しては、いじめにつながる児童生徒間のトラブルの未然防止等、生徒指導事案発生時の連絡体制の確立が進んだことにより、小・中学校ともに問題行動件数が減少したこととの関連によるものと捉える。

(E) 今後の課題

いじめは初期対応が肝要となることから、校内指導体制をさらに明確にし、事案発生時の対応についての危機管理意識を持ち、学校教育課・青少年センター・人権教育課のそれぞれが役割を明確にした対応を行う。  
学校においては、教員の学級経営力が未然防止の基盤になると捉え、特に特別活動を要とした児童生徒の学級に対する所属意識を高める取組を行うことを課題とする。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	学校教育課青少年センター
-----	--------------

(A) 重点課題

○多様なニーズに対応した教育機会の提供  
不登校につながる重大事態の未然防止

(B) 現状及び展開方針

- 不登校児童生徒支援シートを作成し、学校内や関係機関の連携を明確にし、具体的な手だてにつなげる。
- 毎月5日以上欠席児童生徒や、長期休業明け欠席児童生徒を把握し、学校と対応の協議及び指導を行う。
- 指導実践につなげる不登校問題等研修会の内容の構築

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 不登校児童生徒の出現率	4-2-2						3
① 不登校児童生徒 小学校		出現率	0.45%	0.71%	0.57%	0.72%	
中学校		出現率	3.14%	3.98%	3.71%	3.79%	
(2) 適応指導教室からの復帰率	4-2-2						3
① 在籍者数		在籍者数	8人	7人	12人	9人	
② 復帰人数(高等学校進学を含む。)			2人	4人	3人	4人	
③ 復帰率			25%	57.10%	25%	44.40%	

(D) 主な取組の成果

- 不登校児童生徒の出現率：個々に不登校児童生徒支援シートを作成し、取組の可視化が図られ、中学校入学時に学校復帰に至ったケースが見られた。
- 適応指導教室からの復帰率：個々の実情に合った進路指導や学習指導を行った結果、通級生の中学3年生4人全員が進学することができた。また、その他の通級児童生徒についても、出席率の向上が図られ、毎日通級する児童生徒も現れた。

(E) 今後の課題

- 不登校児童生徒の出現率の減少に向け、不登校児童生徒支援シートや長期休業明け欠席調査、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの対応実績表等の分析により、ゲーム依存等の家庭生活との関連を含め、具体的な対応を推進する。
- 適応指導教室においては、通級日数が少ない児童生徒について、児童生徒や保護者の心情を理解しながら、実情に合ったきめ細かな対応を行い、まずは、適応指導教室への通級を目指し、継続して対応を行う。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	幼保連携課
-----	-------

(A) 重点課題

○確かな学力の育成  
 「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」の推進  
 (幼児教育センターを核とした各種研修事業及び現場交流の実施)

(B) 現状及び展開方針

- (1) 幼保交流研修の実施  
 幼児教育や保育実践等について専門分野の学識経験者を招き、公開保育、実地研修、講演会等を開催し、教職員の資質向上を図る。
- (2) 現場交流の実施  
 幼児教育センター職員が各園を訪問し、教育・保育実践について意見交換を行いながら、幼児教育について理解を深める。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 幼保交流研修会	1-1-1	開催回数	15回	15回	11回	9回	3
(2) 現場交流	1-1-1	開催回数	97回	82回	60回	85回	4

(D) 主な取組の成果

- (1) コロナ禍で日程の延期や園内研修への変更もあったが、幼児教育は公開保育を行い、子どもの遊びや活動を豊かにする環境構成や発達に応じた保育内容等幼児教育への理解を深めた。保育実践では、感染対策をしながら保育内容の演習やワークショップを行い、保育技術の向上を図った。西脇市保育協会へ委託した研修は、オンラインを活用して各園から参加し、食育・アレルギー対応の理解を深めた。
- (2) 現場交流では、質の向上推進委員会委員による視察の代替えを含め幼児教育センター職員が認定こども園を訪問し、保育現場で子ども理解や保育の進め方について一緒に考え、教職員の意欲を高めることができた。

(E) 今後の課題

保育教諭等の資質向上に資するよう研修を充実し、「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」の理解をより深めていく。また、0～15歳までを見通した教育・保育体制の構築に向け、幼児期の教育と小学校教育との連携を強化する。さらに、幼児教育センターの体制を強化する必要がある。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	幼保連携課
-----	-------

(A) 重点課題

○確かな学力の育成  
 「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」に基づいた保育内容と実践の評価・点検手法の調査研究  
 (西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会の着実な運営)

(B) 現状及び展開方針

「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」に基づく教育・保育の提供が行われているかその理解と実践の検証を行う。現状と課題を明らかにし、必要な指導助言を行う。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 就学前教育・保育の質の向上推進委員会	1-1-1	開催回数	—	3回	3回	3回	3
(2) 委員による訪問指導	1-1-1	実施回数	—	18回	18回	9回	3

(D) 主な取組の成果

西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会を設置して2年目となり、各園が日頃の教育・保育を振り返って自己評価を行い、委員（学識経験者、北はりま特別支援学校コーディネーター、小学校長代表者）の助言を受けた。コロナ禍で、委員が認定こども園と幼稚園を各2回訪問する予定が1回になり評価は行わなかったが、強みを伸ばし改善を考えていくPDCAサイクルにより、事業の取組が園に浸透してきている。

(E) 今後の課題

「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」の内容に基づいた自己評価を実施することで各園の良さや課題を明確化し、改善に向けた助言等を行うとともに、次の見通しを保育者と一緒に考える対話の時間を十分に確保し、振り返りや新たな気づきに導き、引き続き就学前教育・保育の質の向上を図っていく必要がある。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	人権教育課
-----	-------

(A) 重点課題

○豊かな心の育成  
多文化共生教育の推進

(B) 現状及び展開方針

- 帰国児童生徒や外国人児童生徒等日本語指導が必要な児童生徒を支援する。  
(日本語指導が必要な児童生徒は5人、子ども多文化共生サポーターの県費派遣2人、市費派遣3人)
- 国際理解や異文化への理解を図り、多文化共生への認識を高めるための体験活動を行う。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 子ども多文化共生サポーター派遣事業	1-2-11	充足率	100%	100%	100%	100%	3
子ども多文化共生サポーター充足率 (サポーター数÷日本語指導が必要な児童生徒数)							
(2) にしわきジュニアじんけん教室	1-2-11	参加者数	87人	76人	100人	30人	2
国際理解や異文化理解につながる体験・交流活動の参加者数							

(D) 主な取組の成果

- 日本語指導が必要な帰国児童生徒や外国人児童生徒への子ども多文化共生サポーターを100%派遣できた。
- 子ども多文化共生サポーターの派遣により、該当児童生徒の学校生活が円滑に送れているとの報告を受けた。
- 訪問指導において、子ども多文化共生サポーターの支援により該当児童生徒が意欲的に授業に参加できていることを確認した。

(E) 今後の課題

- 今後は、該当児童生徒の日本語習得を促進する取組が必要である。
- 日本語指導が必要な外国にルーツをもつ児童生徒への理解を深めるため、内容や募集、交流方法を工夫し、教職員対象の研修会や児童生徒を対象とした参加体験型活動(にしわきジュニアじんけん教室)を実施する。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	人権教育課
-----	-------

(A) 重点課題

○人権意識の高揚を図る人権教育の推進  
「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間事業の実施

(B) 現状及び展開方針

8月を「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間に位置付けて取組を進める。  
(1) 人権講演会（市内8地区）の開催  
(2) じんけんパンフレット（Flat・広報版）を全戸配布  
(3) 人権の花運動の実施（幼稚園・こども園対象）

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会	3-2-1						
(1) 総参加者数		参加者数	1,398人	1,412人	1,300人	—	3
「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会	3-2-1						
(1) 初めて参加した人の数		参加者数	214人	213人	250人	—	3
(2) 若年層(20~40代)の参加者数		参加者数	241人	233人	300人	—	
「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会	3-2-1						
(1) 「たいへん満足」と答えた方(アンケート)の割合		割合	65.9%	64.5%	70.0%	—	3

(D) 主な取組の成果

(1) 「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間(8月)講演会の総参加者数は、ここ5年間増加していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により、全講演会を中止とした。代替の取組として、人権啓発作品を市民対象に募集した。優秀作品を表彰し、啓発作品として公共施設での掲示、じんけんパンフレット(Flat)への掲載を行った。  
(応募作品数: 標語部門 69作品/ポスター部門 40作品/エッセイ部門 14作品)  
(2) コロナ禍において、集合型の啓発活動の実施が困難な状況となったが、新型コロナウイルス感染症に関する人権配慮について「2つのそうぞう」をキーワードに、積極的に啓発に取り組んだ。じんけんパンフレット(広報版)の作成・配布、啓発ポスター・チラシの掲示、SNSを利用した情報発信、防災行政無線での呼び掛け等を実施した。

(E) 今後の課題

(1) 講演会開催に向け、地域の課題に沿った講師選定を進めていくことが必要である。  
(2) 広報等を工夫し、参加者の広がり、若い世代(20~40代)の参加を促していく。  
(3) 市民ニーズにあった講演会を企画することで、満足度を高める。  
(4) 啓発ポスター作成・掲示や人権の花運動等により、市民運動への気運を高める。  
(5) コロナ禍において実施可能で、効果のある啓発や研修の実施方法を工夫する。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	生涯学習課
-----	-------

(A) 重点課題

○文化・芸術活動の充実・支援  
文化団体の人材育成支援

(B) 現状及び展開方針

- 芸術・文化活動をけん引する組織（アートサポーター）を設置し、西脇市にあった活動の推進や新たな事業提案を行う。
- アートサポーター・生涯学習課・（公財）西脇市文化・スポーツ振興財団の連携による文化・芸術の振興

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 文化団体の人材育成	2-2-1	アートサポーターの設置	-	組織の役割決定・メンバー選定	メンバーの決定	5人	2
					会議の開催	1回	

(D) 主な取組の成果

アートサポーターの設置について、調整不足により活動開始が年度末となってしまった。設置したアートサポーターにより、令和3年度以降の市民交流施設や市内文化施設を活用した文化・芸術活動の提案・運営を行う。

(E) 今後の課題

アートサポーターの活動開始が年度末となり、また、令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた多くの文化事業が中止となった。今後は有効な感染症対策を行いながら、市民が文化・芸術に親しめる環境をつくるため、アートサポーターの活動及び組織の充実が課題である。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	生涯学習課
-----	-------

(A) 重点課題

○文化施設の充実・整備  
 市民交流施設における文化・芸術の振興  
 ( (公財)文化・スポーツ振興財団の安定的な運営)

(B) 現状及び展開方針

長年、市民生活に密着した文化交流の拠点施設として、市民の自主的な芸術・文化活動への支援等を行ってきた市民会館の閉館に伴い、新たに令和3年5月に開館する市民交流施設オリナスホールを文化・芸術活動の拠点として活用し、継続した支援を行う。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 市民交流施設における文化・芸術の振興 ( (公財)文化・スポーツ振興財団の安定的な運営)	2-2-2	文化施設利用者数	127,706人	116,314人	120,000人	81,315人	2

(D) 主な取組の成果

(公財)西脇市文化・スポーツ振興財団と調整を行い、令和3年度以降、アートサポーターの活用や指定管理者との連携により、市民交流施設、市内文化施設における文化・芸術の振興を行うこととした。

(E) 今後の課題

令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた多くの文化事業が中止となった。今後は有効な感染症対策を行うとともに、気軽に文化・芸術に触れることができる機会づくりを行う。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 生涯学習課スポーツ振興室

(A) 重点課題

○豊かな心の育成  
東京2020オリンピック・パラリンピックに対する市民の気運醸成

(B) 現状及び展開方針

ホストタウンとして、スポーツ、教育、文化等の継承に向け、両競技大会の意義、価値等に対する市民の理解・関心の向上を図り、関連イベントやスポーツ教室の開催を通じて、気運醸成を図る。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) オーストラリア卓球選手団の招へい	1-2-12	招へい人数	-	5人	8人	-	3
(2) 講演会やスポーツ教室の開催	1-2-12	開催回数	3回	3回	4回	-	3

(D) 主な取組の成果

(1) オリンピックの事前合宿に向けて調整を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、オリンピックが延期となったため、事前合宿も延期した。  
(2) 講演会やスポーツ教室の開催についても、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

(E) 今後の課題

東京2020オリンピック・パラリンピックの延期を受け、再度、市民の気運醸成を図るとともに、受入れマニュアルの作成により、新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 生涯学習課スポーツ振興室

(A) 重点課題

○人生 100年時代を見据えた生涯学習の推進  
卓球に親しむためのアクションプランの策定

(B) 現状及び展開方針

人生 100年時代を見据え、健康寿命の増進は重要な課題となる。健康であるためのスポーツ活動の重要性や必要性を周知するとともに、誰もがいつでも気軽にスポーツに親しむための機会づくりとして卓球を推進するためにアクションプランを策定する。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 健康卓球やラージボールの推進	3-1-4	講演会・教室の開催回数	1回	0回	4回	—	2
(2) 地域等への卓球台の配布	3-1-4	配布箇所	—	24箇所	13箇所	13箇所	3

(D) 主な取組の成果

- (1) 健康卓球教室や講演会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。
- (2) 市内体育施設設置の老朽化した卓球台を、希望する地域等へ13台配布することにより、卓球を通じた地域づくりや生涯スポーツの推進に寄与した。
- (3) アクションプランについては、令和2年度中に策定できなかった。今後、策定に向けて検討していく。

(E) 今後の課題

卓球による生涯スポーツの推進を行うために健幸都市推進室の健幸運動教室 Ni-Coと連携する。また、配布した卓球台の地域等での利用状況の調査を行い、生涯スポーツの推進に生かしていく。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 生涯学習課中央公民館

(A) 重点課題

○人生 100年時代を見据えた生涯学習の推進  
高齢者大学の充実・活性化

(B) 現状及び展開方針

新型コロナウイルス感染症の影響により、高齢者大学各講座の開講を中止せざるを得ない現状であるが、高齢者が地域でより一層活躍できる学習機会を提供する基盤づくりを進めていく方針に変更はない。その方針に基づいて、学生が自ら習得した学習成果・技能や技術を活用して地域社会に貢献できる仕組みの構築に努めるとともに、学生が引き続いて受講しやすい環境の整備を進め、高齢者大学での学習が地域でのボランティア活動等に有効に活用できるように学習内容の検討と再構築を進める。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 地域活動推進	3-1-3	参加事例数	35件	25件	18件	13件	3
(2) 高齢者大学主催の講座への参加率	3-1-3	参加率	62%	60%	63%	50%	3

(D) 主な取組の成果

高齢者大学学生が習得した学習成果や技能・技術を地域活動に活用し、地域に還元する(学生による地域ボランティア活動の実施及び促進)事例を増やしボランティア活動への参加を促してきた。様々な地域での活動例など情報を提供することで、大学での学習にとどまらず地域活動につなげていこうという意欲をもつ学生が増加し、参加事例を増やすことができた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、意欲はあっても参加できないという学生も目立ち、成果の拡大が難しくなっている。

(E) 今後の課題

高齢者大学学生が習得した学習成果や技能・技術を地域のボランティア活動として活用している事例数は次第に増加しているが、実践グループはまだまだ限られており、実践グループの拡大が今後の課題の一つである。ボランティア活動に結び付く講座の開設を進めるとともに、学生が地域でがんばる姿を大学内で共有し活動の様子を知らせ、学生の生きがいがいづくりにつなげていく。

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 生涯学習課生活文化総合センター

(A) 重点課題

○豊かな心の育成  
生活文化総合センターの利用促進

(B) 現状及び展開方針

- (1) 郷土の歴史や文化に触れることで、郷土への愛着を醸成し、市民の文化財の保護・継承への理解を深める。
  - ・特別展、各種講座や体験学習などを開催する。
- (2) 施設運営の安定化を図り、来館者数の増加を図る。
  - ・学習機会の提供や多様な市民ニーズに対応できる施設整備を推進する。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 文化財の保存・活用の推進	1-2-6						3
① 郷土資料館の入館者数		入館者数	3,973人	4,433人	3,500人	2,569人	
② 特別展の来館者数		来館者数	1,018人	1,546人	1,200人	916人	
③ 体験教室の実施回数		実施回数	3回	7回	3回	—	
(2) 施設の利用促進	1-2-6						3
① 来館者数の増加を図る		来館者数	—	28,099人	25,000人	19,647人	

(D) 主な取組の成果

- (1) 新型コロナウイルス感染症の影響により4月・5月に臨時休館したが、期間を変更して企画展「西脇・多可の古代」を開催し、関連事業として特別講演会「古代の多可郡」を開催した。また、特別展「これなあに・昔の道具25」や古文書講座(5回)、ふるさと探訪ハイキング(3/20)も開催した。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の影響により、体験教室は実施できなかった。
- (3) 学習ルームは定員を50%にし提供した。特に考査期間中の利用が多く、入館者数の17%を占めた。市民ギャラリーも休館中を除くと稼働率は約68%で、ギャラリーの来館者は入館者数の約20%となった。

(E) 今後の課題

- (1) 学校園の授業等との連携(社会科カリキュラムと連動した特別展、出前講座など)
- (2) 体験教室やイベントへの参加者数の増加を図るためのPR活動
- (3) 考査期間以外の学習ルームの利用や研修室等の利用促進を図るためのPR活動

令和2年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	生涯学習課図書館
-----	----------

(A) 重点課題

○人生 100年時代を見据えた生涯学習の推進  
 図書館の貸出密度の上昇  
 ・図書館資料の充実  
 ・子ども読書活動推進計画の推進  
 ・学校園、こども園への団体貸出の推進  
 ・郷土カルタ大会の実施  
 ・各種イベントの充実

(B) 現状及び展開方針

令和2年度末の蔵書冊数は 218,805冊となり、さらなる充実に向けて、令和6年度末には25万冊を目指す。利用については、令和2年度の貸出冊数は 352,901冊で、新型コロナウイルス感染症の影響による休館等で、前年度より約 7.3%減となった。令和3年度には40万冊を目指す。また、令和2年度の学校園等への図書団体貸出は19,586冊で、前年度より約67%の大幅増となった。子どもの読書活動への支援を今後もさらに推進する。ただ、各種イベント等については、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの実施が見送りとなった。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	30年度	元年度	2年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 図書館活動普及啓発事業	3-1-6						3
・貸出冊数		冊数/年度	411,191冊	380,601冊	400,000冊	352,901冊	
・登録者数		延べ人数	27,611人	28,708人	30,000人	29,381人	
・読書通帳利用者数		延べ人数	6,637人	7,578人	8,500人	8,227人	
(2) 図書館用図書充実事業	3-1-6						3
・蔵書満足度		割合	38.1%	34.2%	45.0%	33.8%	

(D) 主な取組の成果

令和2年度には 8,969冊の図書と77点の視聴覚資料を購入し、年度末の蔵書数は 218,805冊となった。利用については、令和2年度の貸出冊数は 352,901冊で、新型コロナウイルス感染症の影響による休館等で、前年度より約 7.3%の減となった。しかし、学校園等への図書団体貸出は、前年度に比べ約67%の大幅な増加となり、家読等の子どもの読書活動への支援を推進することができた。

(E) 今後の課題

平成30年度には貸出冊数が 411,191冊、貸出密度が10.1冊となり、トップクラスの図書館のあかしとされる貸出密度10冊以上を達成した。しかし、令和元年度から新型コロナウイルス感染症の影響による休館等で貸出冊数が減少し、令和2年度には平成30年度と比べて約14%減少したため、貸出密度を再び10冊以上とすることが課題である。また、令和2年度末の蔵書数が 218,805冊となり、図書館の図書収納冊数を超える状況となっているため、今後、閉架書庫の整備等図書の保管場所の確保が必要となる。

## 学識経験者による意見

### 1 兵庫教育大学大学院学校教育研究科特任教授 浅野良一氏による意見

#### 1 課所別の事業点検評価の結果

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
教育総務課	学校学習環境規模の適正化の推進	<p>学習環境規模適正化検討会議を立ち上げ、会議を4回開催し、学習環境規模適正化の検討が進み出したことは、持続可能な教育環境を構築するための大きな一歩となっていることと推察できる。また、小中一貫校（義務教育学校）に関する先進地（神戸市・姫路市）を訪問し、実践を視察できたことは、これからの本市の小中一貫教育において大いなる示唆を得ることができたと思われる。このような観点から、(1)(3)の自己評価「3」は妥当であると判断する。</p> <p>しかし、学校規模の適正化を進めるには、地域の理解が欠かせない。新型コロナウイルス感染症の影響があったとはいえ、地域会議の開催回数が目標の半分にも満たなかったことは、非常に残念である。(2)の自己評価は「2」が妥当であるかもしれない。今後の取組として市民フォーラム及び出前講座の開催、市内8地区における地域説明会が挙げられているが、オンラインツールの活用の可能性など、工夫の余地はないか引き続き検討していただきたい。</p>
	<p>1 学校教育施設の計画的・効率的な整備の促進</p> <p>2 学校教育施設の施設整備（耐震化の促進）・西脇小学校等施設整備事業</p>	<p>まず、「(C)取組の状況」(2)に「学校施設耐震化率」が項目として挙げられているが、令和元年度に100%を達成し、それが継続されているならば、自己評価が「3」となるのは当然のことであり、指標としての必要性があったのかが不明である。今後の指標の精選が待たれるところである。</p> <p>西脇小学校に関する工事では、玄関のバリアフリー化や木造北棟校舎との渡り廊下の設置等が完了し、安全・安心な教育環境の整備が進んだことから、(1)の自己評価「3」は妥当である。また、学校学習環境規模適正化検討会議が予定通り開催され、方針検討がなされたことから、(3)の自己評価「3」は妥当であると判断できる。さらに、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、小・中学校へサーキュレーターやミストファン等を迅速に設置し、熱中症予防対策を講じたことは大いに評価できる点である。今後も、国の補助制度を活用しながら、児童や生徒が安心して学校に通うことができる環境の整備に努めていただきたい。</p>

担当 課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
給食センター	学級担任や教科担当と栄養教諭との連携及び効果的な食に関する指導の充実	<p>栄養教諭による食育指導については、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業、その後も感染予防対策が続く中、目標値の90回の半分を超える56回の実施がされたことは高く評価できる。また、職員が協力しながら食育指導の時間を確保し、担当教諭との事前調整を行うなど、学校との連携に努めたことにより、子どもたちに確実な食育指導が行われたと推察する。目標値には及ばないが、取組の充実への工夫が認められるため、自己評価「3」は妥当と判断する。</p> <p>学校給食残菜率については、目標値の6.0%よりも更に低い数値であり、平成30年度以降で最も低く、自己評価「3」はやや厳しめと判断する。今後の課題として、栄養教諭や教職員が連携しながら、残菜の要因の分析に基づいた新たなアプローチを検討していただきたい。</p> <p>食中毒事件数は0件であることが基本であり、自己評価「3」は妥当であると判断する。今後も衛生・安全な学校給食の提供を継続し、学校給食への信頼をより一層高めていくことを期待する。</p>
	<p>1 学校給食の安定的に継続した提供の推進</p> <p>2 学校給食における地産地消の推進</p>	<p>調理業務委託事業については、調理業務を委託する民間事業者の選定条件の構築に向けて要求水準内容を慎重に検討し、プロポーザル方式採用のために保護者委員を含めた選定委員会を開催するなど、明瞭な選定が展開されており、より質の高い事業者の選定に努めている。また、次年度からの委託開始準備に向けて予定通りに業者選定及び移行準備を進めており、自己評価「3」は妥当と判断する。</p> <p>地産地消率については目標値とされていた20.0%を4.5ポイント上回っており、自己評価「3」はやや厳しめと判断する。地域農産物の確保については、農林振興課との協働、野菜生産者グループとの定期的な会議の実施など、具体的な方策がとられていることがこの結果に結びついていると推察する。今後、学校給食における地産地消率をより一層高めていくことを期待する。</p> <p>エネルギー充足率については、100%と目標値を達成しており、自己評価「3」は妥当であると判断する。今後も子どもたちの心身の健康、成長を促し、豊かな心を育む学校給食の提供を期待したいところである。</p>

担当 課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
学校 教育 課	1 学校における授業改善の推進 2 「にしわき学力向上事業」における各事業内容の見直しと改善	<p>授業改善の推進については、研究授業の実施回数が目標値を上回っているとともに、学力向上推進会議等の協議決定事項を保護者や教職員と共有したり、全国学力・学習状況調査を活用した動画を児童生徒が視聴できるようにしたりするなど、取組に工夫が見られることから、自己評価「3」は妥当である。また、「読解力の向上」についても、中学3年生においては目標値に及ばないが、おおむね目標を達成していると推察できるため、自己評価「3」は妥当であると判断する。英語教育については、民間英語試験のトータルでは全国参考値を上回っているものの、前年度からの全国参考値の上昇（304.8→339.9）ほど伸びていないこと（323.8→343.2）、また、分野によっては全国を下回っているものもあることから、自己評価「3」は、多少楽観的であると言わざるを得ない。今後も、校種間の系統性・連続性を踏まえた学習指導に係る研究を推進するとともに、学校・家庭が連携し、教育力を補完し合えるような関係づくりを推進することも必要ではないかと考える。</p>
	いじめの早期発見と早期対応	<p>いじめの早期発見、早期対応については、生徒指導事案発生時の連絡体制の確立が進んだことにより、小・中学校ともにいじめ事案が減少していることにつながっていると推察できる。しかし、いじめの認知件数の増減をどのように捉えるかは判断が難しいところであり、認知すべき事案を見逃している可能性等を勘案すると自己評価「2」は妥当であると言える。今後も「未然防止」と「問題発生時の組織的対応」を軸に、いじめの適切な把握に向けての取組が各学校において定着するよう支援を進めることを期待する。</p> <p>いじめ根絶への意識高揚については、指標に対する目標値は現状を踏まえたものであることが拝察されるが、「『いじめはどんな理由があってもいけないことだ』と考える児童生徒の割合」については、100%を目指して取組を進めていただきたい。</p>

担当 課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
青少年 センター	不登校につながる重大事態の未然防止	<p>新型コロナウイルス感染症による新たな負荷が子どもたちにかかる中、不登校につながる重大事態の未然防止に努めるためには、不登校の質の変容を分析し、教育委員会と学校が協働した具体的な施策を推進しなければならない。</p> <p>そのような状況において、不登校児童生徒の小学校における出現率が、コロナ禍の影響を受けながらも令和元年と同等であったことは、不登校児童生徒支援シートの活用が功を奏したと言える。</p> <p>また、きめ細かい進路指導や学習指導を行った結果、通級生の中学3年4人全員が進学することができたことやその他の通級児童生徒についても出席率の向上が図られていることから、自己評価「3」は妥当であると判断する。</p> <p>今後も、各関係機関や保護者との連携を密接にするだけでなく、不登校に直面する学校現場にとってより実用的な施策となるように工夫していただきたい。</p>

担当 課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
幼保連携課	<p>「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」の推進（幼児教育センターを核とした各種研修事業及び現場交流の実施）</p>	<p>幼保交流研修については、コロナ禍での実施となったが、日程の延期、園内研修への変更などの調整を行いながら実施した。また、新型コロナウイルス感染症予防のため制限がある中でも、公開保育を実施し、子どもの遊びや活動を豊かにする環境構成、発達に応じた保育内容について理解を深めることができた。保育実践でも、感染予防対策を徹底し、保育内容の演習やワークショップなどに取り組んだことで、保育技術の向上にもつながったと言える。このことから、自己評価「3」は妥当であると言える。感染予防対策の徹底やオンラインを活用した研修などは、安心安全な保育現場の提供を考える上でも有効であり、今後の保育で考えていくべき課題と思われる。</p> <p>現場交流については、質の向上推進委員会委員、幼児教育センター職員が訪問し、子ども理解や保育の進め方について一緒に考えることで、教職員の意識を高めていると言える。そのため、年度当初の目標値はコロナ禍で低めであったが、結果的には前年度とほぼ同等に実施できている。また、今回の事業も効果的であったことから、自己評価「4」は妥当だと考える。</p>
	<p>「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」に基づいた保育内容と実践の評価・点検手法の調査研究 （西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会の着実な運営）</p>	<p>「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」に基づく教育・保育の提供が行われているかの検証について、コロナ禍にあったとは言え、十分にできなかったことは残念であった。しかし、就学前教育・保育の質の向上推進委員会としての取組が2年目となったことから、事業の取組が各園に浸透し、コロナ禍でありながらも年3回の開催を維持できたことは評価できる。そのため、継続し成果を残せたことを踏まえても自己評価「3」は妥当であると考えられる。</p> <p>各園が自己評価を行い、それぞれの強みを伸ばすための訪問指導を実施していたことは評価できる。また、課題を明確にすることで、具体的な改善を一緒に考え、助言していたことも、就学前教育・保育の質の向上につながっている。コロナ禍で実施回数は半減していることを差し引いても自己評価「3」は妥当である。今後、対面以外でも相談支援や助言が行える体制を整えることも必要となると考える。</p>

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
人権教育課	多文化共生教育の推進	<p>日本語指導が必要な児童生徒への支援については実績値 100%と支援が行き届いた状態であり評価できる。次年度以降も帰国児童生徒や外国人児童生徒等への支援の充実を継続してほしい。</p> <p>市広報8月号に「子ども多文化共生サポーター」の取組が紹介されていた。人権に関する様々な取組を時機をみて市民に紹介することは、人権尊重の精神の涵養にとって極めて重要であり、評価できる。これらのことから自己評価「3」は妥当であると判断する。引き続き人権教育の充実而努力してほしい。</p> <p>体験活動を通して、子どもたちに「互いを認め合い、共に生きることの大切さ」に気付かせ、主体的に社会へ関わろうとする姿勢を育む「にしわきジュニアじんけん教室」は、大変価値の高い優れた取組である。したがって、今後の取組の充実・発展への期待を込めて、自己評価「2」は厳しめではあるが妥当であると判断する。本事業を更に充実・発展させていくためには、学校への理解促進と働きかけが必要である。学校との一層の協働により、より多くの子どもたちの本教室への参加を促してほしい。</p>
	「人権文化をすすめる市民運動」推進 強調月間事業の実施	<p>コロナ禍で、「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間（8月）講演会の中止を余儀なくされたことは残念であった。しかし、むしろ市民一人ひとりの生命や人権を大切にしている人権教育課の姿勢の表れとも感じとられた。また、講演会の中止に終わらせず、代替の取組として人権啓発作品の募集をする等、市民への働きかけを欠かさなかった点は極めて評価できる。</p> <p>指標の項目に、「初めて参加した人の数」や「若者層（20～40代）の参加者数」があることも評価できる。人権に係る研修会等は、とかく高齢者や役職としての参加が多く、若者や新規参加者をいかに増加させるかが課題となることが多い。この点を課題と捉え、指標項目としている点に、人権教育課の積極的な姿勢が感じられた。これらのことから、各取組の自己評価「3」は妥当であると判断する。今後は、広報活動に加え、若い世代が参加しやすい日時設定も検討願いたい。</p>

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
生涯学習課	文化団体の人材育成支援	<p>文化団体の人材育成支援を重点課題と位置付け、取り組んでいるが、目標値が低く、実績値も満足できるものではない。重点課題との位置付けがある以上、それ相応の覚悟をもって業務に当たってほしい。</p> <p>公益財団法人西脇市文化・スポーツ振興財団との連携が取れていないことが予想されるが、なぜ成果が上がらないのか、その要因を課内関係者で分析し、成果が上がるよう改善に努めてほしい。</p> <p>「(D) 主な取組の成果」の記載内容が、今年度の取組成果となっていない。事業評価に真摯に向き合い、次年度に向けた改善につなげてほしい。</p> <p>文化・芸術の振興を担う所管課としての公益財団法人西脇市文化・スポーツ振興財団としっかり連携を取りながら事業展開に努めてほしい。</p> <p>以上のことから自己評価は「2」が妥当と判断するが、「1」に近い「2」である。</p>
	市民交流施設における文化・芸術の振興（(公財)文化・スポーツ振興財団の安定的な運営）	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対策で様々な企画が中止となり、中止に伴う事務処理業務に苦労が多かったように思われる。</p> <p>「(D) 主な取組の成果」にも表記されているアートサポーターの活用には、公益財団法人西脇市文化・スポーツ振興財団との調整や指定管理者との連携が重要である。生涯学習を担う所管課として、アートサポーターの育成や資質能力の向上を図ってもらいたい。このような観点から、自己評価「2」は妥当であると判断する。</p> <p>新設された「市民交流施設オリナスホール」への市民の期待は大きいのではないかと拝察される。公益財団法人西脇市文化・スポーツ振興財団及び指定管理者と連携を図りながら、市内交流施設・文化施設の拠点として、西脇市の文化・芸術の振興を図ってほしい。</p>

担当 課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
ス ポ ー ツ 振 興 室	東京2020オリンピック・パラリンピックに対する市民の気運醸成	<p>オーストラリア卓球選手団の招へい、講演会やスポーツ教室の開催については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により東京2020オリンピック・パラリンピックが延期となったため、対応に苦慮したことと拝察する。新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況にあり、感染拡大防止の観点から、(1)(2)について、当初計画していたとおりの実施は難しいことも多々あったと思われる。そのような状況ではあるが、ホストタウンとして選ばれたことは市民にとって誇りであり、このことを契機とし、市民のスポーツ文化振興の気運を高めていく施策が進められることを期待する。</p>
	卓球に親しむためのアクションプランの策定	<p>令和2年度は、コロナ禍のため、予定されていた健康卓球教室や講演会が中止となったことはやむを得ないことであった。しかし、ただ中止とするのではなく、使わなかった資源を、人生100年時代を見据えた生涯学習の推進、特にここでは卓球を通しての健康寿命の増進に活用されたのかは疑問が残る。例えば「ラージボール」や「卓球教室」の魅力などの普及活動に、YouTube等の動画配信やSNSを用いたの広報活動などが可能な工夫として考えられる。評価シートからは判断できないが、実施可能な代替の取組がなされたことを期待しつつ、(1)の自己評価としては「2」が妥当と判断する。</p> <p>地域等への卓球台の配布は、目標値を達成していることから自己評価「3」は妥当である。しかし、卓球台の配布は、誰でもいつでも気軽にスポーツを親しむための機会づくりの手段であり、目的はあくまで「(A)重点課題」の達成である。そのことが「(C)取組の状況」や「(E)今後の課題」の表記からは読み取りづらいので、今後、重点課題の達成に向けて改善されるよう期待する。</p>

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
中央公民館	高齢者大学の充実・活性化	<p>地域活動推進、高齢者大学主催の講座への参加率については、新型コロナウイルス感染症拡大の中、目標値の7割、8割以上の達成状況となっているため、自己評価「3」はやや厳しめと思われる。また、高齢者大学学生が習得した学習成果や技能・技術を地域のボランティア活動として地域に還元しようとする取組は、学生にとっても学びの意欲や生きがいづくりになると考えられ、今後の更なる発展が期待できる。高齢者大学で学んだ学生は貴重な地域人材であり、地域学校園における外部講師として活躍する機会が増えていくことなども考えられる。そのためにも情報発信を充実させ、高齢者大学の学内外を超えた活動を支援することを期待する。</p>
生活文化総合センター	生活文化総合センターの利用促進	<p>各事業において、年度当初の目標値を下回っているが、コロナ禍での4月から5月の臨時休館、感染拡大予防対策による入館者制限などを考慮すると自己評価「3」は妥当である。企画展や特別講演会などは、感染対策の徹底や時期を変更することで実施を可能にし、来館者を増やす努力が感じられる。テーマや内容は、西脇市だけでなく近隣地域を取り上げたものであったため、より広い範囲からの来館者を増やし、一層の郷土愛の醸成に寄与したと思われる。特別展に関しては、小・中学校の社会科との連動や各学校教員との連携が期待される内容であった。今後は、学校単位の見学や職員による出前授業なども、オンライン対応が可能になれば学校現場での活用が広がると思われる。</p> <p>ギャラリーの稼働率約68%に比べ、ギャラリーへの来館者が入館者数の約20%と少ない現状から、今後はギャラリーの展示方法や広報活動などの工夫が必要だと思われる。しかし、コロナ禍の現状を勘案すると、自己評価の「3」は妥当だと考える。</p>

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
図書館	図書館の貸出密度の上昇	<p>令和2年度の貸出冊数は352,901冊で、前年度より約7.3%の減少となっているが、平成30年度から令和元年度にかけての貸出冊数の減少が約7.4%であることを勘案すれば、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があった中、むしろ踏み留まっていると言える。また、登録者数や読書通帳利用者数についても目標値の達成には至っていないが、平成30年度から毎年増加しており、取組の成果が着実に出来ていると思われる。さらに、学校園等への図書団体貸出が、前年度から約67%の大幅な増加となったことは評価できる。したがって、自己評価「3」は妥当であると判断する。</p> <p>蔵書冊数については、令和6年度末の目標25万冊に近づいているが、図書館の収納冊数を超える状況となっている。保管場所の確保が必要であることは言うまでもないが、古い蔵書の整理等による良書の選別も同時に進め、子どもたちの読書活動が質・量ともに充実するような施策を進めていただきたい。</p>

## 学識経験者による意見

### 2 元西脇市立小学校長 岸本信子氏による意見

#### 1 課所別の事業点検評価の結果

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
教育総務課	学校学習環境規模の適正化の推進	<p>安全安心で質の高い教育環境を整備するために、課題の整理や推進方針の検討が始まった。少子高齢化により、市内各校共に学級数が減少している。現状のまま、未来に課題を先送りにはできない。</p> <p>学制発布以来、地域での学校が果たす役割は大きかった。単に知識量を増やすことにとどまらず、体力気力を養う場であった。仲間や地域の大人とのつながりをはぐくむ場であった。数字で量れるものと数字で表せないものを精査し、様々な角度から検討すべきと考える。</p> <p>また、先進地視察の観点が明確でなく、視察後の分析についての資料がなく、市民フォーラムや出前講座の内容が把握しにくい。結論ありきの説明会にならないように、より多くの市民の声を聞く場として欲しい。合理化だけで切り捨てることのないよう、今後の検討に期待して、自己評価「3」は、妥当と思う。</p>
	<p>1 学校教育施設の計画的・効率的な整備の促進</p> <p>2 学校教育施設の施設整備（耐震化の促進）・西脇小学校等施設整備事業</p>	<p>西脇市立西脇小学校の保存改修工事が終了した。最大時 1,500人という児童数を擁し、木造校舎3棟のほか鉄筋コンクリート造3階建て校舎満杯で、学校生活を送っていた。現在児童数 400人と減少したが、同規模でゆったりくらしている。また、耐震化を進めるだけでなく、快適に過ごせるように手洗いやトイレにも細かい配慮がなされている。外見の美しさだけでなく、バリアフリー化や学び易さ等が認められ、国の重要文化財に指定された。大規模改修工事がやっと終わったところではあるが、次のステージに向けての計画が必要であろう。市内全学校施設における耐震化率 100%を達成したため、自己評価「3」は、妥当と思われる。</p> <p>西脇小学校以外の学校園の老朽化対策だけでなく、新型コロナウイルス感染症対策、熱中症対策等、具体的な整備スケジュールや事業費見直しを進めることを願い、自己評価「3」は、妥当とする。</p>

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
給食センター	学級担任や教科担当と栄養教諭との連携及び効果的な食に関する指導の充実	<p>今から40年近く前、西脇市立比延小学校の給食指導を認められ、文部省に表彰された。当時、センター方式によるパック詰めであった。配膳に手間がかからず過不足を調整しなくても良かった。ただ、食の細かい子への配慮なく、画一的な指導とパックそのものの問題のために、なかなか決定しなかった。その問題を上回ったのが、担任による地道な食育指導であった。手作りの資料は見易かった。また、広い校地を生かし、今でいうランチルームを作った。担任の個性を發揮した多彩な指導が認められたのだ。</p> <p>(1) 栄養教諭による食育指導  (2) 学校給食残菜率  (3) 食中毒事故件数</p> <p>いずれも自己評価「3」は妥当と考える。毎日の業務で忙しい中、食育指導に取り組んだり、施設見学を受け入れたり、個に特化した除去給食を実施したりする姿勢には頭が下がる。栄養教諭が積極的に食育指導に関わる体制は、無論大切である。しかし、それだけでは、効果が少ない。栄養教諭・担任・担当教諭それぞれが担うものを、事前に明確にして取り組みたい。</p>
	<p>1 学校給食の安定的に継続した提供の推進</p> <p>2 学校給食における地産地消の推進</p>	<p>そもそも学校給食が始まった当初、昼前になると良い香りが漂い始め、給食の時間が待ち遠しかった。給食着に着替え、並んで給食室に行くと調理員さんが笑顔で迎えてくれた。感謝の気持ちが、自然に醸成され「ありがとうございました」というあいさつができた。センター方式になり、働く姿が見えにくくなった。合理化によりムダを省き、給食費を抑えて低予算で安心安全な給食の供給が可能となっている。価格だけでなく、質の高さも選定基準となっているとか。調理業務委託後のアンケートが待たれるところではある。</p> <p>(1) 調理業務委託事業  業者の選定が終わり、契約を締結し、民間委託による給食が始まった。自己評価「3」は妥当と考える。3年度末のアンケートを楽しみにしている。</p> <p>(2) 地産地消率  野菜生産者グループ例会を毎月開催し、給食食材(野菜)の地元産を優先している。農林振興課や旬菜館と三者会議をするなど地産地消を積極的に行っている。よって、自己評価「3」は妥当と考える。</p> <p>(3) エネルギー充足率  100%充足できている。自己評価「3」は妥当である。</p>

担当 課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
学校 教育 課	<p>1 学校における授業改善の推進</p> <p>2 「にしわき学力向上事業」における各事業内容の見直しと改善</p>	<p>学校が楽しいという要素に、授業が分かることが挙げられる。授業が分かるとは、児童生徒同士の高めあいとともに、教師の話し方・教え方に大きく左右される。学力向上の取組は、多方面から、組織的・計画的に充実させていくことが求められる。新型コロナウイルス感染症禍の中、授業改善への実績値は、大きく評価できる。よって、自己評価「3」は、妥当と考える、また、全国学力・学習状況調査におけるアンケートでは、国語の授業がよく分かるという回答した児童生徒が、全国値を上回っている。授業改善への成果と捉え、自己評価「3」は、妥当である。ただ、読解力向上を共通研究テーマとし、系統表を作成したとあるが、活用状況についての詳しい資料や活用例が欲しいところではある。</p> <p>英語教育の推進に重点を置き、英語検定料補助や民間英語試験への参加等、学力向上への取組は特筆すべき点である。それにより、市平均点が全国参考値を上回るという成果を収めている。自己評価「3」は、妥当と判断する。小・中学校のより一層の連携強化を図り、更なる学力向上を期待したい。</p>
	いじめの早期発見と早期対応	<p>いじめの認知件数が増加していないことにより、自己評価「2」となっている。ただ、これまではいじめ件数を隠そうとする教師がいた。そのため、アンケートを破棄したり偽回答をしたりという事案が報告されたこともあった。教師の人権感覚の間われるところである。いじめの認知件数の減少が、いじめ事案が減少していることによるものか否やは、集約した担任の判断に委ねられる。アンケートは、職員研修の好機と捉え、いじめ防止に努めて欲しい。今後、数字の集約だけでなく、教師のコメントを併せて集約して欲しい。いじめの認知件数の目標値に対する実績値では、自己評価「2」は、妥当である。</p> <p>いじめ根絶への意識高揚については、道徳の時間だけでなく、児童生徒の生活の場においても育むべきである。むしろ、実生活の中でこそ、道徳的実践が問われるべきである。いじめが見えにくくなったと言われて久しい。SNS等新たないじめも増加している。あらゆる角度から、いじめの早期発見早期対応に努めることを期待し、自己評価「3」は、妥当と考える。</p>

担当 課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
青少年センター	不登校につながる重大事態の未然防止	<p>不登校児童生徒の居場所づくりを喫緊の課題とし、適応指導教室を充実させている。また、不登校児童生徒支援シートを個々に作成したり、長期休業明けの欠席児童生徒を把握したりと、家庭や学校と連携した対応を行っている。きめ細かい指導が功を奏し、不登校児童生徒の出現率が、改善している。自己評価「3」は妥当と考える。また、適応指導教室からの復帰率44%は、目標値を大きく上回っている。そのため、自己評価「3」は、妥当と考える。ゲーム依存等、生活習慣が乱れている児童生徒は、生活を立て直すことが難しい。家庭も疲弊しているところが多い。スクールソーシャルワーカーの活用等、好結果を挙げた事例を参考に、ゲーム依存から抜け出せた児童生徒が増えることを願っている。</p>

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
幼保連携課	<p>「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」の推進（幼児教育センターを核とした各種研修事業及び現場交流の実施）</p>	<p>幼児教育に携わる人は、表情が豊かで言葉が明瞭な人が多い。更に、歌唱・楽器演奏等のスキルも然りである。幼児は、忸度しない。面白ければ動く。楽しければ踊る。絵を描く。ごっこ遊びをする。閉ざされた保育室の中だけでは、独りよがりになりがちである。保育の進め方に限らず、子ども理解の感性や方法も違う。自分以外の保育を見るだけで、違いを認識することができる。ましてや、保育を公開し、事後研究会で様々な意見を聞くことは大きな財産となる。</p> <p>幼保交流研修も、公開保育・実地研修・講演会とワンパターンでなく、様々な角度から資質向上を図っている。よって、自己評価「3」は、妥当と考える。</p> <p>現場交流では、コロナ禍の中でも目標値を上回る実績を上げている。それにより、義務教育終了までを見通した教育・保育体制の連携が図られている。幼児教育センターが核となり、他に類を見ない研修が行われている。議論のための議論に終わらず、自己評価「4」は妥当と考える。</p>
	<p>「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」に基づいた保育内容と実践の評価・点検手法の調査研究 （西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会の着実な運営）</p>	<p>西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会は、学識経験者・北はりま特別支援学校コーディネーター・小学校長代表者等、幅広い委員で構成されている。委員それぞれが、自分の得意とするところで、各園をアドバイスをしている。各園では、実践をきめ細かく検証している。評価をすることで、各園の取組が一層充実している他に類を見ない取組である。次なる実践に生かせる実感は、煩雑な事務処理があっても職員のモチベーションアップにつながる。自己評価「3」は、妥当と考える。</p> <p>委員による訪問指導は、当初目標値18回には及ばないものの市内各園を9回訪問している。日程調整・準備を含め、担当者の熱い想いにより実現したと推測する。これにより、認定こども園と幼稚園との共通理解が図られ、就学前教育・保育の深化が図られた。次年度は、より一層の充実への期待を込め、自己評価「3」は、妥当と判断する。</p>

担当 課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
人 権 教 育 課	多文化共生教育の推進	<p>言葉が理解できないことは、疎外感を生む。生活習慣文化が違う環境の中で必死で暮らしている方々の閉塞感は、いかばかりか。西脇市における日本語指導が必要な児童生徒は、5人。子ども多文化共生サポーターの県費派遣2人、市費派遣3人と、充足率は100%である。なんと心強いことか。該当児童生徒が円滑に学校生活を送ることは、保護者も安心して暮らせることにつながる。自己評価「3」は妥当と考える。日本語習得や生活習慣への理解は、サポーターと担任との連携が求められる。打ち合わせ時間を確保し、きめ細かく取り組む必要がある。</p> <p>また、国際理解や異文化への理解を図り、多文化共生への認識を高めるための体験活動（にしわきジュニアじんけん教室）は、参加者数が目標値に届かなかった。コロナ禍での難しさもあり、自己評価「2」は妥当と考える。該当児童生徒の尊厳をもって取り組めただろうか。お互いの国への尊敬を再確認できる企画であっただろうか。今一度厳しく自省し、お互いを分かり合う内容として欲しい。</p>
	「人権文化をすすめる市民運動」推進 強調月間事業の実施	<p>人権文化を進める市民運動として、8月を推進強調月間とする取組が定着して久しい。イベントだけでなく、人権意識の高揚を図る取組となっている。人権講演会や人権啓発資料、人権の花運動の実施等、地域の課題に沿うよう工夫している。また、若い世代の参加を促す努力も続けている。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により様々な事業が中止となった。そんな中、講演会の代替の取組として人権啓発作品を市民に募集した。標語・ポスター・エッセイの応募総数123点、自らの意思で応募された数字である。コロナ禍での新たな人権課題にも、即座に積極的に取り組んだ。以上の観点から、人権文化を進める市民運動 推進強調月間とする取組での自己評価</p> <p>(1) 総参加者数 (2) 初めて参加した人の数 若年層の参加者数 (3) 大変満足と答えた方の割合</p> <p>いずれも「3」は、妥当と考える。</p>

担当 課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
生涯学習課	文化団体の人材育成支援	<p>近隣市町村に先駆け、市民会館が建設された。併せて、文化連盟が組織され、長年にわたって芸術・文化活動の振興に寄与してきた。小さい市でありながら、美術館・音楽ホール・資料館等文化施設も多い。市庁舎や市民交流施設が新しくなり、新しい場で新しい活動を仕組むことが可能になった。そんな折、芸術・文化活動をけん引する組織（アートサポーター）を設置し、新しい芸術・文化活動を振興を図る必要がある。いずれにしても、緒についたばかり。2年度の目標は、メンバーの決定である。自己評価「2」は、妥当と考える。文化・芸術面での歴史の重みを誇りに思いつつ、市民が新しい文化活動に親しめる事業提案を期待する。</p>
	市民交流施設における文化・芸術の振興（（公財）文化・スポーツ振興財団の安定的な運営）	<p>令和3年5月に、新しい市庁舎と市民交流施設オリナスホールが開館する。それに伴い、長年にわたって、市民の自主的な芸術・文化活動を支援してきた市民会館が閉館した。施設の老朽化に伴い、雨漏りや動線の悪さ等の問題がクローズアップされた。欠点が浮き彫りになったが、市内学校園の音楽祭や図工展を開催し、市全体のレベルアップに貢献してきた。音楽では、小学生から高齢者までが一堂に会してのイベントもあった。建物の老朽化は、市内文化・芸術の歴史と重なる。市内の文化・芸術のこれまでとこれからのスムーズな接続と、市内各所に散在する文化交流施設の役割分担・調整を図る必要がある。（公財）西脇市文化・スポーツ振興財団との調整で市民交流施設・市内文化施設の有効活用に期待したい。まだ始まっていないため、自己評価「2」は妥当と考える。</p>

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
スポーツ振興室	東京2020オリンピック・パラリンピックに対する市民の気運醸成	<p>東京2020が決定して喜んだのが、昨日のように思い出される。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために1年延期された。ホストタウンとして、オーストラリア卓球選手団の招へいが決まった。一流選手の躍動する姿は児童生徒をはじめ、多くの市民に強烈な印象を与える好機となるはずだった。東京2020延期に伴い、感染防止策を徹底し、受入れマニュアルを見直したりと鋭意努力されてこられた。しかし、ホストタウンとして、スポーツ・教育・文化等の継承に向け、市民の理解・関心の向上を図ることは、かなわなかった。</p> <p>たまたまめぐりあわせが悪く、直接目の当たりにはできなかった。しかし、受け入れのために努力してきたことは、なんらかの種まきをしたと捉え、花咲く未来を楽しみに待ちたい。よって、(1)オーストラリア卓球選手団の招へい (2)講演会やスポーツ教室の開催 とともに、自己評価「3」は妥当と考える。</p>
	卓球に親しむためのアクションプランの策定	<p>人生 100年時代を見据え、心身ともに自立し、健康的に生活できることが求められている。誰もがいつでも気軽にスポーツに親しむ機会として、西脇市では、卓球を推奨している。市内各所において、大勢が無理のない範囲で卓球を楽しんでいる。コロナ禍の中、気の合う仲間との談笑が難しくなった。技術向上だけでなく、人とのコミュニケーションが健康に生かせるとの結果が報告されている。コロナの先の市民が卓球を糸口にスポーツを楽しむことを願っている。</p> <p>(1) 健康卓球やラージボールの推進 講演会教室の開催数は、令和元年度2年度ともに0回であった。そのため、自己評価「2」は妥当と考える。</p> <p>(2) 地域等への卓球台の配布 37箇所と増えている。生涯スポーツの推進に生かせるよう、物の支援に留まらない支援をお願いしたい。自己評価「3」は妥当と考える。</p> <p>西脇市では、筑波大学のノウハウとICT（情報通信技術）を生かした健幸プログラムを開催。活動に応じてポイントが付く制度が始まった。市民が自分の健康状態に合わせて、プログラムを選択できるのが強みである。卓球に尻込みする方にも受け入れられると期待している。</p>

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
中央公民館	高齢者大学の充実・活性化	<p>今年98歳を迎える知人が、毎晩足に感謝しながら入浴しているそうだ。杖なしでは歩けないのに、グラウンドゴルフではいまだに走れるとのこと。俳句をたしなみ、かな書道が続けている。絵手紙や押し花も卒業したが、乞われると作品を作っている。まさに人生100年時代の先駆者である。彼女自身素晴らしい方であるが、彼女を取り巻く家族や友人、地域の方々が素晴らしい。もう年だからと止めるのではなく、できるようにサポートすることから始まっている。そのため、続けられることに誇りと生きがいを持っている。これといった具体的なボランティア活動をしなくても、他の方々の参加意欲を喚起している。地域活動推進の事例数は減ってきたが、コロナ禍も影響しているため、自己評価「3」は妥当と考える。</p> <p>高齢者大学主催の講座への参加率も同様に、コロナ禍で、伸び悩んでいる。自己評価「3」は妥当と考える。参加者のニーズに合う講座を開設し、とりあえず参加してみたいという学習内容を再構築してほしい。興味関心が、活動の原点である。そこに、生きがいや向上心というスパイスを足すことを期待している。</p>
生活文化総合センター	生活文化総合センターの利用促進	<p>郷土資料館に行けば、古代から現在までの西脇市に関することならなんでも答えてくれる。何より、郷土の歴史や文化に触れることができる。西脇市民は、そう言った絶対的な信頼を郷土資料館に寄せている。膨大な資料の整理が進み、企画展をニーズに合わせて実施できる。長期にわたって集めた資料は、西脇の宝である。企画展「西脇・多可の古代」を開催したり、特別講演会「古代の多可郡」を開催したりした。古文書講座やふるさと深訪ハイキングも実施した。いろいろな取組で、市民の文化財の保護・継承への理解度を深めようとしていることは、大きく評価できる。よって、自己評価「3」は妥当である。</p> <p>また、来館者数の増加を図る取組もよくなされている。自己評価「3」は妥当である。しかし、努力の割に来館者数が伸びない。学習ルームやギャラリーも、居心地よく整備されたが、利用者が少ない。道路からのすぐに入館できにくい。バリアフリー化にも、解決すべき点がある。ハード・ソフト両面での対策が必要と考える。</p>

担当課	令和2年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
図書館	図書館の貸出密度の上昇	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のために、休館を余儀なくされた。そのため、貸出冊数は減少した。休館期間中、学校園・こども園への団体貸出を大幅に増え、前年度に比べ減少が抑えられた。PCを使った貸出事務が、正確で素早く、貸出冊数の多い煩雑さを幾分か解消している。登録者数も年々増え、図書館活動普及啓発事業の自己評価「3」は妥当と判断する。</p> <p>予定していた各種イベントは実施できなかったが、図書館の開館を待ちわびる親子が目標としている貸出密度の上昇を支えている。古色蒼然としたいかめしい全集、いつから手を触れていないのかという事典、図書館用図書の蔵書数は、蔵書満足度とも大いに関係する。図書館として、利用者に読んでほしい本と利用者が読みたい本には違いがある。蔵書満足度を上げつつ、図書の充実を図らねばならない。図書館用図書充実事業における自己評価「3」は妥当と考える。空想に胸を躍らせながら、物語を読んだり、科学の不思議に一挙に引き込まれたりを経験する子どもたちの増加を期待したい。</p>